

# よしながだより

vol.12

## 犬もボケるの??

昔に比べ、最近ではペットの寿命が延びて高齢のワンちゃんが多くなってきました。そのため、ヒトの『認知症』のような症状のワンちゃんもみられ、対応に悩まれる飼い主さんが増えています。

### ワンちゃんの痴呆チェック (13才以上)

1. 夜中に意味もなく単調な声で鳴き出し、止めても鳴き止まない。
2. 歩行は前進のみ。トボトボと歩き、円を描くように歩く。
3. 狭いところに入り、後退できなくなる。
4. 自分の名前や飼い主さんのことがわからなくなり、何事にも無反応。
5. よく寝て、よく食べ、下痢もせず、に痩せてくる。



### 夜鳴き

犬の痴呆症で飼い主さんが最も悩まされることが『夜鳴き』だと思います。体内時計が狂うことで昼夜逆転の生活になり、遠吠えのようなひびきわたる声で鳴き続けます。

### 《対策》

#### ① 日中はなるべく起こしておく

昼寝の時間を減らしましょう。遊びや散歩の時間を増やして、少し疲れさせると(無理のない程度に)、夜に眠りにつきやすくなります。

## ②日光浴をさせる

日光浴は、体内時間をリセットしたり、『メラトニン(眠りを誘うホルモン)』の分泌を促します。寝たきりのワンちゃんも、窓際に寝床を移動させて、ひなたぼっこをさせてあげましょう。



## ③サプリメントを使う

魚介類に多く含まれる不飽和脂肪酸である『DHA』や『EPA』が老化の進行を抑制します。初期の痴呆の場合、これらのサプリメントを与えることで夜鳴きが改善されることがあります。当院でも取り扱っていますので、ご相談下さい。

しかし、これらの対策の前に見極めたいのが、「本当に鳴く理由はないのか」ということです。高年齢犬の夜鳴きの原因が、必ずしも痴呆とは限りません。体の痛みや寒さ、寝床が硬いなど、体調不良や環境が原因で眠れず鳴いている場合もあります。思い当たることがあれば解決してあげましょう。



寂しくて鳴いていることもあるようです。そんな時は家族のそばで寝かせてあげて下さい。

**徘徊**

痴呆のワンちゃんは、意味もなくトボトボと歩き続けることがあります。「前進」するのみで、「後退」ができません。そのため、障害物に突き当たり立ち尽くしていたり、家具や壁のすき間に入り出られなくなっていることがよくあります。また、まっすぐに歩けず「グルグル」と歩き回る子もいます。このような状態でも、何も支障がなければ、そのままにしておいても問題はありません。

しかしなかには、行き止まった時に甲高い声で鳴き出す子もいます。

また、家具などによってはぶつかってケガをする危険性もあり、放っておけない場合があります。



## 《対策》

### 『エンドレスケージ』の使用

バスマットなど、クッション性のある性質のマットをつなぎ合わせて円形のサークルを作り、その中でワンちゃんを歩かせます。これなら角がないので行き止まることはありませんし、体をぶつけてケガをする心配もありません。小型犬なら、ビニールポールの使用も可能です。



痴呆症のワンちゃんはひとりで外に出て徘徊し、自分の家がわからなくなることがあります。監視や連絡先のわかるものを首輪につけておきましょう。

## ワンちゃんがボケないために...

### ① たくさん話しかける

たくさん話しかけてコミュニケーションをとると、頭も気持ちも活性化します。話しかける機会を増やすためには、家族のそばに居場所をつくるのがおすすめです。

### ② スキンシップ

視覚や聴覚が衰えてきた老犬だからこそ、触れ合いが大切!

### ③ 散歩中に刺激をプラス

時々、散歩コースを変えてみる、通り過ぎていた草むらで遊んでみる... そんなちょっとした刺激が、老犬に好奇心や遊び心をよみがえらせます。

### ④ 子犬を迎える

同居犬を迎えると大きな刺激になります。元気のいい子犬だとなおさらです。一緒に遊んだり、まわりつく子犬を「うるさい」と払いのけることでさえ、心と体への刺激になるのです。